

第2学年 英語科学習指導案

1 単元名

UNIT3 My Future Job

2 単元の見どころ

- (1) 不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。不定詞を用いた文の理解のもとに、何かをする目的や感情の原因、大切だと思うことを伝えたり、言葉に情報を加えて説明したりする技能を身につけている。(知識・技能)
- (2) 自分の将来像や夢を考えて伝え合うために、職業について書かれた文章の概要を捉えたり、自分の夢や夢実現のためにしていることなどについて説明したりしている。(思考・判断・表現)
- (3) 自分の将来像や夢を考えて伝え合うために、職業について書かれた文章の概要を捉えたり、自分の夢や夢実現のためにしていることなどについて説明したりしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元構成の意図

男子4名、女子12名、計16名のクラスである。2つの小学校から集まって1つの学級になったのだが、それぞれ幼稚園からずっと同じクラスで生活しているため、言葉を介さずともお互いのことをよく分かっている集団である。男女の仲もよく、教師の発問や友人の発表にも素直に反応し、互いに言葉をかけ合いながらゆっくと学んでいる。しかし、基礎的な知識や技能について十分ではない生徒が多く、伝えたいことを吟味しているうちに時間ばかりが過ぎてしまうことが多い。

この単元は、朝美とメグが将来について話したり、朝美が自分の職業体験のレポートをまとめたりして、これからの社会や自分の将来像について考えを深めるという設定である。メグがインターネットでみつけたAIに関する記事から始まり、将来についてのメグと朝美との対話や朝美の職業体験レポートなどが紹介されている。さまざまな職業分野における活用が検討されているAIによる社会変化について考え、朝美の職業体験レポート内容を共有することで、自分の将来や夢について考えるきっかけにしたい。言語材料としては、不定詞(副詞的用法、形容詞的用法)とIt is...+toの文構造が扱われている。そのため、生徒にとっては職業体験という学校での学習や活動の場面を設定して「説明する」「報告する」「質問する」「発表する」言語活動を展開することができる。

指導に当たっては、自分の将来像や夢という、2年生の進路学習と密接に関連した題材を生かし、身近で適切な場面設定を行うことにより、不定詞の使用場面や働きを理解させたい。さらに、様々な職業分野におけるAIの活用に対する興味・関心を高め、これからの社会や働き方の変化に目を向ける姿勢を育てたい。

4 単元の計画 (総時数8時間)

時	場面	学習活動(夢中に学んでいる姿)	資質・能力
1	見通す 習得する	自分がよく行く場所について「…するために、そこへ行きます。」という文章を作成し、相互にその場所を言い当てる。	動作や行為について、それをやる目的を理解したり伝えたりすることができる。(知・主)
2	習得する	自分がうれしいと感じることを想像し、「…してうれしかったです。」というような文章を数多く書く。	うれしい・悲しいなどの気持ちとその原因を、理解したり伝えたりすることができる。(知・主)
3 本時	考える 対話する	将来の夢や夢実現のためにしていることを相手に自分のことをよく分かってもらえるようにペアになって伝え合う。	おたがいの夢を知るために、夢実現のためにしていることなどについて情報を整理して伝え合うことができる。(知・主)
4~5	考える 対話する	自分が興味を持っていることについて述べ、どのようなことをすればそれが自分の強みになるか、ほかの生徒からアドバイスをもらい、それを参考に英語で書く。	職業についてよく知るために、仕事の内容などについて書かれた文章の概要を促したり、情報を加えて説明したりすることができる。(思・主)
6~7	振り返る 考える	コンピュータやAIを活用するうえで、自分自身が重要だと思うことを英語にし、発表する。発表を聞く生徒は、よりよく伝えていることを称賛する。	これからの社会を想像し、自分の将来像や夢について考えるために、すべきことなどについて、理解したり伝えたりすることができる。(知・思)
8	考える	職業体験に行った人のレポートを読んで職業体験の内容をペアで伝え合い、グループで発表する。	自分の体験を伝えるために、職業体験について、事実や意見を整理して、尋ね合ったり伝えたりすることができる。(知・思)

単元を通して育成したい子どもの姿

習得した言語材料を使用し、自分の将来像や夢について述べる際に、相手意識をもってよりよく伝えようとする自分の姿をセルフモニタリングし、他者との対話を通して修正・付加・発展させ、完成まで工夫を積み重ねる姿

5 本時のねらい

将来の夢についてのインタビュー活動を通して、お互いの夢や夢実現のためにしていることなどについての情報を整理して、相手意識をもって伝える。

6 学習過程

	学習活動・内容 (T主な発問・C生徒の発問)	時間	○指導上の留意点 ◎研究主題に迫る手立て ◇評価
課題設定	<p>1. 本時の学習課題を捉える。</p> <p>(1) 既習事項を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文法事項 (to不定詞) の確認 ・本時の課題把握 <p>(2) 本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【課題】</p> <p>「あなたの夢は何ですか」というテレビ番組のインタビューで、どういったやり取りをすればよいだろう？</p> </div> <p>2. 課題解決の見通しを持つ。</p> <p>T: 将来の夢についての中学生向けインタビュー番組を30秒で制作し、録画します。</p>	<p>10 一斉</p> <p>2 一斉</p>	<p>○ カードゲームで既習事項を確認し、それらを黒板に貼り、本時の学習でも活用できるようにする。</p> <p>○設定は中学生向けの番組とする。</p>
課題解決	<p>3. 課題に取り組む。</p> <p>(1) インタビュー内容を考える。</p> <p>T: インタビューする立場の人はどのようにインタビューしますか。インタビューされる立場の人はどのように答えますか。ペアで考えよう。</p> <p>(2) 1回目のやり取りを録画する。</p> <p>(3) 録画したものを確認する。</p> <p>C: 声が小さくて聞こえないから大きな声で言ってみよう。</p> <p>C: 情報が足りないよね。どうすればいいかな。</p> <p>4. 課題を解決する。</p> <p>(1) 各ペアのインタビューがどんな内容になったか全体で確認する。</p> <p>C: どの仕事に就きたいのか、どうしてその仕事に就きたいのかの理由は聞いた方が良い。</p> <p>(2) うまくいかなかった点を振り返る。</p> <p>T: うまくいかなかったところはどこだろう。</p> <p>C: 質問が続かなかった。</p> <p>C: 英語でなんて言えばいいのかわからない。</p> <p>T: 何と言いたかったのだろう。確認しよう。</p>	<p>20 ペア</p> <p>ペア</p> <p>ペア</p> <p>15 一斉</p> <p>一斉</p>	<p>○ インタビューをする人とされる人に分かれて、役割が同じ者同士2人ペアになり、インタビュー場面を想定して英語で何と表現するか考えさせる。</p> <p>○ タイマーで30秒測り、ペアで一度録画させる。未完成のペアはインタビューの流れだけでも確認させる。</p> <p>◇ 情報を整理し、伝え合おうとしているか。(観察・画像)</p> <p>◎ やり取りを客観的に見ることので、よりよいものにしようとする主体的に取り組ませる。</p> <p>○ 数作品を全体で鑑賞し、質問を確認することで、必ず聞かなければならない質問を洗い出す。</p> <p>◎ 録画を見て、十分に表現できなかった点を確認することで課題を意識させる。</p> <p>○ つまづきが多くみられたところを聞き取り、どう表現すればよいか皆で考える。なるべく既習事項を用いた平易な表現に置きかえて文章を確認させる。</p>
振り返り	<p>5. 本時を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>インタビュー番組の制作で必要になった表現にはどのようなものがありましたか？何がきっかけで表現できるようになりましたか。</p> </div> <p>6. 次時の活動についての見通しをもつ。</p>	<p>3 個人</p>	<p>○ 自己評価カードに、本時学んだことや次の活動への意欲などを生徒の言葉でまとめさせる。</p> <p>○机間巡視を通してよい振り返りを取り上げる。</p> <p>○ 次時はさらに推敲を重ねて番組を完成させることを伝える。</p>